

新潟大学大学院

現代社会文化研究科

2017

大学院(博士前期・後期課程)案内

# 「共に」生きる時代



## CONTENTS

「共に」生きる時代	1
基本理念・研究科の特色	2
学位取得までのプロセス・支援	4
専攻紹介	
博士前期課程	6
現代文化専攻	
社会文化専攻	
法政社会専攻	
経済経営専攻	
博士後期課程	10
人間形成研究専攻	
共生文化研究専攻	
共生社会研究専攻	
入学試験(博士前期課程)について	16
入学試験(博士後期課程)について	17
キャンパスライフ～在学生からのメッセージ～	18
修了生の声	20



大学院現代社会文化研究科長 鈴木 光太郎

この十数年で私たちをとりまく世界は大きく様変わりしました。身近なところでは、スマホやタブレットが私たちの身体の一部となり、どこからでも情報にアクセスできるようになり、国を越えた活動もあたりまえになりました。十数年前にうたい文句のように言われたグローバリゼーションは、常態になっています。現在、この地球上では73億の人間が経済の面でも情報の面でもつながりながら暮らしています。私たちの活動は、国や社会や文化を超え、まさにボーダーレスの状況を呈してきています。私たちはいま、これまでの人類の歴史のなかでまったく経験したことのない時相のなかにいます。

そうした状況は、すべての人々が幸福を享受するのを可能にするものでありますが、一方では、国を越えたさまざまな問題——環境問題、生物種の絶滅、食糧問題、エネルギー問題、テロ、難民問題、核の脅威、パンデミックの脅威——を引き起こしています。それらの問題の回避や解決に向けて歩みを進めるには、国を越えたさまざまな人々の知恵の結集と協力が必要になります。そしてそれは急を要する課題です。

私たちの現代社会文化研究科の理念は「共生」と「現代性」にあります。上にあげた問題の解決に向けては、まさにこの「共生」と「現代性」が鍵になります。ここでいう共生とは、人間と人間、社会と社会、人間と自然が「共に」生きることを指し、「現代性」とは、さまざまな問題を現代という文脈のなかで捉えなおすことを意味しています。過去のことを学ぶ場合でも、現代とのつながりのなかで考えて初めて、そこに大きな価値が生まれ、現代の問題に役立てることが可能になります。

現代社会文化研究科は220名を越える教員を擁し、その専門は人文科学、社会科学、教育科学の多領域にわたっています。それゆえ、現代の社会が直面する個々の問題にどこからでもアプローチすることが可能です。研究科で学んでいる学生は半数が日本人学生ですが、半数は留学生で世界の各地から学びに来ており、その問題意識もさまざまです。社会経験を積んだ社会人学生の方も多数います。そうした多領域の教員とさまざまな問題意識をもった学生のいる環境のなかで、自分の取り組みたい問題に果敢にアプローチし、確かな成果（あるいは生き方）をつかみとっていただくことを切に願っています。

# 基本理念・研究科の特色

## 新潟大学大学院現代社会文化研究科アドミッション・ポリシー

新潟大学大学院現代社会文化研究科の各専攻は、下記の目的によって教育研究を進めています。このような教育研究目的に応じて専門職業人・研究者となる意欲と能力を有した人物を募集します。

### 博士前期課程

現代文化専攻は、社会や文化に関する課題を、情報文化、哲学・心理学及び生活健康行動科学の観点から発見・探求する能力を涵養し、現代文化についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

社会文化専攻は、社会や文化間の相互理解に関する課題を、世界の言語・歴史・文化の観点から発見・探求する能力を涵養し、社会や文化についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

法政社会専攻は、法制度及び行政に関する課題を、共生社会の構築という観点から発見・探求する能力を涵養し、法政社会についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

経済経営専攻は、グローバル化が進む現代社会の重層的かつ複雑な経済に関する課題を、経済学・経営学の観点から発見・探求する能力を涵養し、経済経営についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

### 博士後期課程

人間形成研究専攻は、家庭・学校・社会等における人間形成に関する課題を、生活環境・文化・教育の観点から分析・解決する能力を涵養し、人間形成についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

共生文化研究専攻は、世界の諸地域の言語・歴史・文化に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、日本、アジア、欧米等の言語・歴史・文化についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

共生社会研究専攻は、国際社会や地域社会における法・政治・経済等のシステム及び制度に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、法学、経済学の高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

## 基本理念

課題探求能力の育成

現代社会文化研究科の基本理念は「課題研究能力の育成」です。

現代の社会は、自己責任型社会へ急速に転換しつつあります。自己責任型社会では、時代の変化に、私たちが主体的に対応できる能力が求められます。それには、自分で学ぶ能力を基礎にして、将来の課題を探求し、幅広い視野から総合的な判断を下すことができる課題探求能力を習得する必要があります。

## 2つの理念

〈現代性〉と〈共生〉

本研究科の名称は、「現代」と「社会文化」によって構成されています。この名称は、2つの理念を表現しています。

理念のひとつは〈現代性〉です。〈現代性〉とは、課題設定の方法についての理念を示します。学生は、社会と文化の全領域から自分の課題を設定し、その課題の解決の仕方を、「現代」の問題と関連付けて研究します。

理念のふたつ目は〈共生〉です。〈共生〉とは、課題解決の方向性を示す理念です。「現代」の課題を解決するためには、社会と文化について、人間と人間、人間と自然が共存できるシステムを構想しなければなりません。その理念が〈共生〉です。

## 6つの特色

「基本理念」と「2つの理念」を実現するために、本研究科は、6つの特色を備えています。

### 1 課題探求型の総合型大学院

人文科学・法学・経済学・教育科学にまたがる多数の教員を擁しています。学生は、自分の研究課題に沿った指導を受けることができます。

### 2 一人ひとりに合わせた指導体制

学生一人ひとりに履修指導委員会(主指導教員1人・副指導教員2人によって構成されます)を設け、学生の研究課題に応じた履修指導と論文指導を行います。

### 3 専門型の博士前期課程、学際型の博士後期課程

課題を探求するには、専門性と学際性との調和のとれた能力を有する必要があります。

博士前期課程では、各自の課題を探求するのに必要な専門的学力の習得に努めます。そのことから、専門性を主・学際性を副とするカリキュラムを用意しました。

博士後期課程では、課題解決能力の獲得を目指します。そのことから、学際性を主・専門性を副とするカリキュラムを組みました。教員・学生による研究プロジェクトにも参加します。

### 4 課題に応じた学位

各自の研究課題に応じた学位を取得できます。博士前期課程では、修士(文学)、修士(法学)、修士(行政学)、修士(経済学)、修士(経営学)、修士(公共経営学)、修士(学術)の7種類から、いずれかの学位を取得できます。

博士後期課程では、博士(学術)を基本としつつ、博士(文学)、博士(法学)、博士(経済学)、博士(教育学)のいずれかから取得できます。

### 5 社会人や外国人にも開かれた大学

社会人や外国人を積極的に受け入れるために、入学試験では、社会人や外国人を対象にした特別入試を実施しています。また、社会人学生に対しては、必要に応じて、夜間授業等を開講しています。

### 6 学位取得に向けた履修体制

博士前期課程では2年、博士後期課程では3年の標準修業年限で学位を取得する履修体制を組んでいます。短期修了(修業年限の特例として、優れた研究業績を上げた者に適用)や長期履修の制度もあります。

# 学位取得までのプロセス・支援

学生は学位論文を提出して学位を取得します。学位取得までのプロセスは、博士前期課程、博士後期課程それぞれ下記のとおりです。

## 博士前期課程

博士前期課程では、6～9頁に掲載した授業科目（選択科目）のほかに、「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」「課題研究Ⅲ」「総合演習」を必修科目として設けています。さらにインターンシップ、他大学院の授業科目の履修や入学前の既修得単位など（研究上有益と認められる場合）を認定しています。専門的学力の習得に重きを置いたカリキュラム編成で30単位以上を修得します。



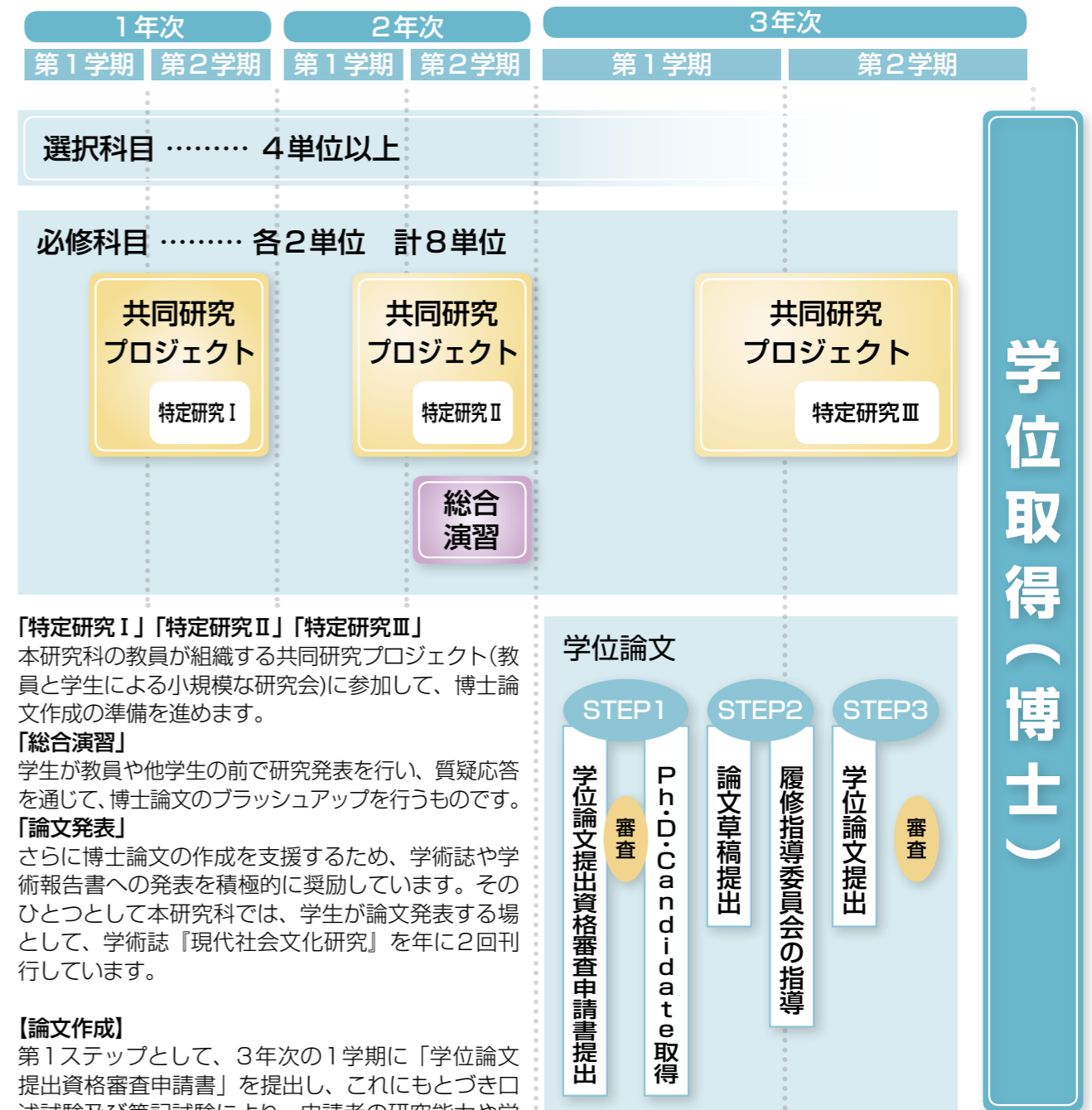
### 【論文作成】

2年次の1学期に「学位論文作成計画書」を提出し、「学位論文作成資格審査」において資格を取得したのちに「学位論文」を提出します。「学位論文」の審査や口述試験により、学位にふさわしい能力を有しているかどうか審査され、合格と判定されると、修士の学位が授与されます。

※学位の種類は、各専攻紹介の頁を参照

## 博士後期課程

博士後期課程では、10～15頁に掲載した授業科目（選択科目）のほかに、「特定研究Ⅰ」「特定研究Ⅱ」「特定研究Ⅲ」「総合演習」を必修科目として設けて、専門的学力を獲得することを目標としています。



# 専攻紹介

博士前期課程

## 博士前期課程 【現代文化専攻】

現代文化専攻は、社会や文化に関する課題を、情報文化、哲学・心理学及び生活健康行動科学の観点から発見・探求する能力を涵養し、現代文化についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

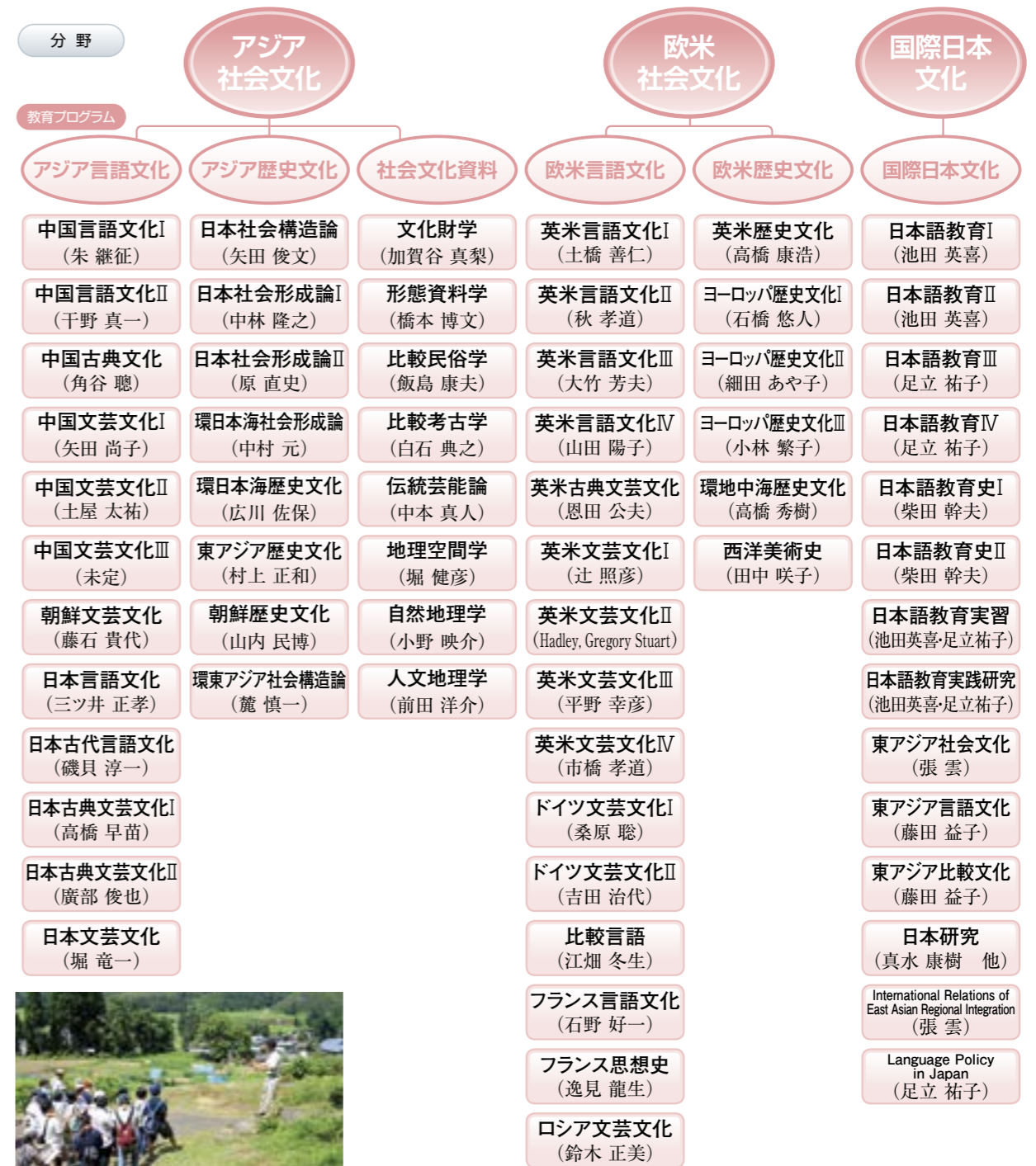
取得できる学位 修士(文学)、修士(学術)



## 博士前期課程 【社会文化専攻】

社会文化専攻は、社会や文化間の相互理解に関する課題を、世界の言語・歴史・文化の観点から発見・探求する能力を涵養し、社会や文化についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

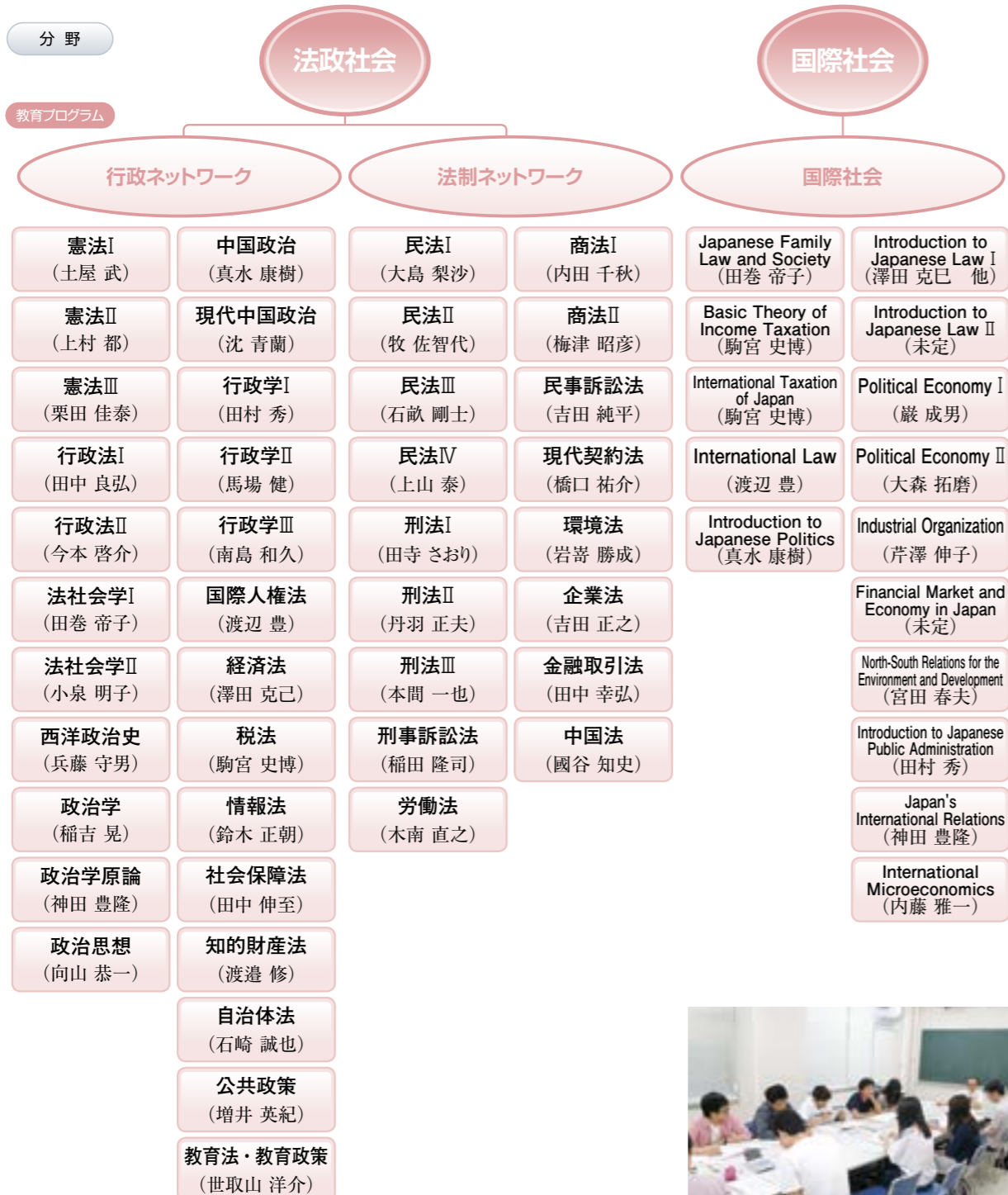
取得できる学位 修士(文学)、修士(学術)



## 博士前期課程 【法政社会専攻】

法政社会専攻は、法制度及び行政に関する課題を、共生社会の構築という観点から発見・探求する能力を涵養し、法政社会についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 修士(法学)、修士(行政学)、修士(学術)



## 博士前期課程 【経済経営専攻】

経済経営専攻は、グローバル化が進む現代社会の重層的かつ複雑な経済に関する課題を、経済学・経営学の観点から発見・探求する能力を涵養し、経済経営についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 修士(経済学)、修士(経営学)、修士(公共経営学)、修士(学術)



# 専攻紹介

博士後期課程

## 博士後期課程 【人間形成研究専攻】

人間形成研究専攻は、家庭・学校・社会等における人間形成に関する課題を、生活環境・文化・教育の観点から分析・解決する能力を涵養し、人間形成についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 博士(学術)、博士(文学)、博士(教育学)

分野

### 人間形成文化



### 現代教育文化



## 博士後期課程 【共生文化研究専攻】

共生文化研究専攻は、世界の諸地域の言語・歴史・文化に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、日本、アジア、欧米等の言語・歴史・文化についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 博士(学術)、博士(文学)

分野

### 地域共生文化



### 国際共生文化





## 博士後期課程 【共生社会研究専攻】

共生社会研究専攻は、国際社会や地域社会における法・政治・経済等のシステム及び制度に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、法学、経済学の高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 博士(学術)、博士(法学)、博士(経済学)

分野

### 地域共生社会



### 国際共生社会



# 入学試験について

現代社会文化研究科の学生募集は、一般入試、社会人特別入試、外国人留学生特別入試の3区分に分けて行います。詳細は「[学生募集要項](#)」をご確認ください。(入学試験に関する問い合わせ先：人文社会科学系大学院学務係 025-262-6166・6826)

## 博士前期課程

### 選抜方法

入学者選抜方法の概要は以下のとおりです。

<b>一般入試</b>	<p>筆記試験及び口述試験で選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●筆記試験は、外国語科目及び専門科目1科目、又は専門科目2科目とします。</li> <li>●筆記試験(外国語科目、専門科目)の問題は「分野」ごとに出題されます。</li> <li>●口述試験は、出願書類を主な資料とします。</li> </ul>
<b>社会人特別入試</b>	<p>筆記試験及び口述試験で選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●筆記試験は小論文です。小論文は「研究計画書」を参考にして出題されます。</li> <li>●口述試験は、出願書類を主な資料とします。</li> </ul>
<b>外国人留学生特別入試</b>	<p>筆記試験及び口述試験で選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●筆記試験(専門科目1科目)の問題は「分野」ごとに出題されます。</li> <li>●口述試験は、出願書類を主な資料とします。</li> </ul>

※社会文化専攻国際日本文化分野については、主に外国人留学生を対象に、入学者選抜を別途行います。同分野の入学希望者は、「学生募集要項」請求の際に、その旨お申し出ください。(10月入学者対象)

※経済経営専攻経営会計分野については、筆記試験を免除される場合があります。「学生募集要項」に示した条件をご覧ください。

### 入学定員

専攻名	入学定員
現代文化専攻	10人
社会文化専攻	20人
法政社会専攻	10人
経済経営専攻	20人
計	60人



## 平成29年度入試予定

	入学時期	入試予定日	募集要項配布時期
9月入試	平成29年4月	平成28年9月16日(金)	平成28年7月上旬
2月入試	平成29年4月 平成29年10月 ※選択して受験	平成29年2月中旬	平成28年12月上旬
7月入試	平成29年10月	平成29年7月上旬	平成29年5月中旬

※変更する可能性がありますので、詳細は現代社会文化研究科HPで必ずご確認ください。  
※2月入試までの合格状況を考慮して、2次募集(3月中旬実施)を行うことがあります。

## 博士後期課程

### 選抜方法

入学者選抜方法の概要は以下のとおりです。

<b>一般入試</b>	<p>「修士論文」を提出した者については、書面審査、筆記試験及び口述試験で選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●書面審査は、「修士論文」について審査します。</li> <li>●筆記試験は、外国語科目1科目を課します。</li> <li>●口述試験は、「修士論文」及び出願書類を主な資料とします。</li> </ul> <p>「修士論文」を提出できない者については、筆記試験及び口述試験で選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●筆記試験は、専門科目(志望する専攻分野に関する1科目)及び外国語科目1科目を課します。</li> <li>●口述試験は、受験した専門科目及び出願書類を主な資料とします。</li> </ul>
<b>社会人特別入試 及び 外国人留学生特別入試</b>	<p>「修士論文」を提出した者については、書面審査及び口述試験で選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●書面審査は、「修士論文」について審査します。</li> <li>●口述試験は、「修士論文」及び出願書類を主な資料とします。</li> </ul> <p>「修士論文」を提出できない者については、筆記試験及び口述試験で選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●筆記試験は、専門科目(志望する専攻分野に関する1科目)を課します。</li> <li>●口述試験は、受験した専門科目及び出願書類を主な資料とします。</li> </ul> <p>いずれの場合も、入学後の教育研究に必要とする外国語能力(外国人留学生にあっては日本語能力)について審査することがあります。</p>
<b>進学者選考</b>	<p>新潟大学大学院修士課程、博士前期課程又は専門職学位課程を修了見込みの者は、進学者選考により選考されます。詳細は「<a href="#">進学者選考要項</a>」により通知しますので、大学院学務係へお問い合わせください。</p>

### 入学定員

専攻名	入学定員
人間形成研究専攻	6人
共生文化研究専攻	7人
共生社会研究専攻	7人
計	20人

# キャンパスライフ

～在学生からのメッセージ～

現代社会文化研究科に在学中の学生の様子をご紹介します



## 博士前期課程

経済経営専攻  
経営会計分野  
2年次生

玉木 直哉 さん

現在、私は租税法という分野について学んでおり、裁判例などを用いて様々な税法を研究しています。

そもそも私は専門学校から大学院進学を決意いたしました。税理士の資格勉強を進めていく上で、税法をより専門的に学びたい、研究したいと思ったからです。大学院といっても、日本全国にたくさんあります。有名大学の大学院はとても魅力的に映るのではないのでしょうか。しかし、大学院に進学するにあたり一番重要なのは、「環境」だと私は思います。現代社会文化研究科には、様々な専門分野の研究者がおり、2年間で租税法を体系的に学ぶことのできるカリキュラムが充実しています。また、講義が少人数制であるため先生との距離も近いという魅力もあります。さらには、社会人や留学生も在籍しており、幅広いコミュニティの中で勉強できます。

今、大学院を検討されているみなさん、きっとどこの大学院に進学すればよいか迷っているのではないかと思います。私自身、専門学校からの進学という不安もあり非常に悩みました。最終的に、決意できたのは勉強しやすい「環境」でした。一度、新潟大学のホームページ研究者総覧を見てください。非常に多くの専門分野の先生方が在職していることがわかれると思います。大学院に進学し、同じ志を持つ仲間と切磋琢磨する日々はとても楽しいですよ。ぜひ、新潟大学現代社会文化研究科で充実した学生生活を送ってください。



研究室では、研究についてアドバイスをもらったりできます。いい気分転換にもなります。



院生同士で勉強のアドバイスをしあうことで、効率的に研究を進めていくことができます。



授業は少人数だから先生との距離がとても近くて理解が深まります。専門的なことを学ぶ環境が整っています。

院生のキャンパスライフ ～玉木さんの博士前期課程2年次1学期～

	月	火	水	木	金
6:00					
7:00	起床	起床	起床	起床	起床
8:00	自主学習	自主学習	自主学習	スポーツ	自主学習
9:00	↓	↓	↓	↓	↓
10:00					
11:00	↓	↓	↓	↓	↓
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
13:00	TA業務	授業準備	TA業務	修論研究	修論研究
14:00	(3限)	授業	(3限)		
15:00	自主学習	(4限)	自主学習		
16:00	↓	自主学習	↓		
17:00					
18:00					
19:00					
20:00					
21:00	↓	↓	↓	↓	↓
22:00	帰宅	帰宅	帰宅	帰宅	帰宅
23:00					
24:00～					



## 博士後期課程

共生文化研究専攻  
国際共生文化分野  
2年次生

羽田 幸恵 さん

現代社会文化研究科の博士後期課程に進学して、2年が経ちました。ロシア語やロシア文化の魅力を多くの人に伝えたくて、博士後期課程まで進んで研究者になることを目指しました。

その博士後期課程では、完全に専門分野に特化して学んでいきます。自ら問いを設定し深めていくその過程の厳しさは、学部、博士前期課程とも異なってきます。少人数制の指導で文献を読み込み、報告し、ディスカッションしていく中で、まさに自分自身で、論文作成の糧を手にしていかなければなりません。

しかし、博士論文の執筆は、とうてい成し遂げられないような厳しいものでもありません。少人数制の文献講読の他に、指導教員をはじめとする多くの先生や院生仲間が参加して行われる総合演習や特定研究という研究会があります。そこで発表を重ねていくことを通じて、論文作成へ向け多くのアドバイスをもらうことができます。もし、「研究は自分だけで行うもの」という先入観をもっていたら、捨ててください。他の方からのアドバイスは、時には厳しいものもありますが、それらは必ず、自分の論文に生きていきます。自分の理想を追い求めているうちに、だんだんと研究そのものの魅力に惹かれていくでしょう。

このように博士後期課程では、指導教員や多くの先生方、院生仲間からサポートをしてもらいながら、自らの研究を深めていくことができます。主体的に研究を進めていけば必ず、道は開けてきます。仲間と一緒に切磋琢磨して研究に励んでいく魅力を、ぜひ、味わってほしいと思います。



研究室が用意されており、数名の学生が同じ部屋を利用していています。整った環境の中で研究をすることで計画的に勉学に励んでいます。



指導教員だけでなく院生同士でお互いに意見を言い合ったり、アドバイスを受けたりしています。大学院現代社会文化研究科には留学生や社会人学生など様々な学生が在籍しています。



院生同士で、研究の進捗状況を報告することにより、さらに研究を深めていきます。仲間と一緒に切磋琢磨し、研究に取り組む魅力をぜひ知っていただきたいです。

院生のキャンパスライフ ～羽田さんの博士後期課程2年次1学期～

	月	火	水	木	金
6:00	起床	起床	起床	起床	起床
7:00					
8:00					
9:00		大学で自習	大学で自習	大学で自習	大学で自習
10:00	↓	↓	↓	↓	↓
11:00	授業				
12:00	↓				
13:00					
14:00					
15:00					
16:00					
17:00					
18:00	↓	↓	↓	↓	↓
19:00	授業	帰宅	帰宅	帰宅	帰宅
20:00	↓				
21:00					
22:00					
23:00					
24:00～	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝

## 殷 志强

地域社会形成論専攻（2012年3月修了）

※改組前の専攻

現職：首都師範大学歴史学院 講師

9年前、日本への憧れや青春の理想を抱いて新潟にやって来て、約5年間にわたる生活を始めた。そして芳井研一先生を始めとする諸先生のご指導で博士の学位を取得し、現在は日中関係に関する教育や研究に従事している。

留学生活では、やはり諸先生から受けたご指導が最も忘れがたい。先生方は如何に考え、如何に分析するか、つまり、純粋に学問を求める道や、「自由な思想、独立した人格」の真の意味が分かるようにご指導くださった。このことは私にとって生涯を通じて見做い、実践すべき目標である。また思い出するのは、お世話になった日本の友人たちの姿である。彼らを通じて、日本の社会や日本人の考えを深く知ることができた。このような草の根交流が中日友好につながると信じている。さらに、新潟での楽しい生活も忘れがたい。海風に吹かれて眺めた日本海の夕日、地酒を飲みながら満喫した海の幸、そして雪が舞う中で入った暖かい温泉、すべてが記憶の奥の宝物になっている。

ですから皆さん、学問に専念すると同時に友人と交流し、新潟の美食・美酒や温泉を堪能し、有意義な学生生活を過ごせるよう心から祈っています。



# 修了生の声



現代社会文化研究科修了生の研究業績の一例



人文社会科学系棟



現代社会文化研究科棟



※JR新潟駅から新潟大学までの交通案内

JR	バス(新潟交通バス)	タクシー
越後線 JR新潟駅 ↓ (20分) 新潟大学前駅下車 徒歩15分	新潟大学行き JR新潟駅 (万代口駅前バスターミナル) ↓ (45分) 新潟大学正門前下車 徒歩1分	JR新潟駅 ↓ (30分) 五十嵐地区

## 新潟大学大学院 現代社会文化研究科

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地  
 GRADUATE SCHOOL OF MODERN SOCIETY AND CULTURE  
 NIIGATA UNIVERSITY  
 8050,Ikarashi 2-no-cho Nishiku, Niigata City 950-2181, Japan  
 お問い合わせ  
 人文社会科学系大学院学務係(人文社会科学系棟D棟1階)  
 TEL:025-262-6826・6166  
 FAX:025-262-7457  
 E-mail:jimugen@cc.niigata-u.ac.jp  
 Web page URL:http://www.gens.niigata-u.ac.jp

